

(4)体系化された技術を全国各地で指導する団体からの取組紹介

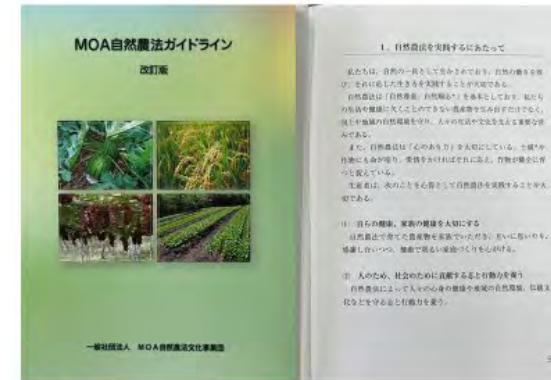
健康な環境で、健康な作物を育てる

(一社) MOA自然農法文化事業団

全国各地への普及



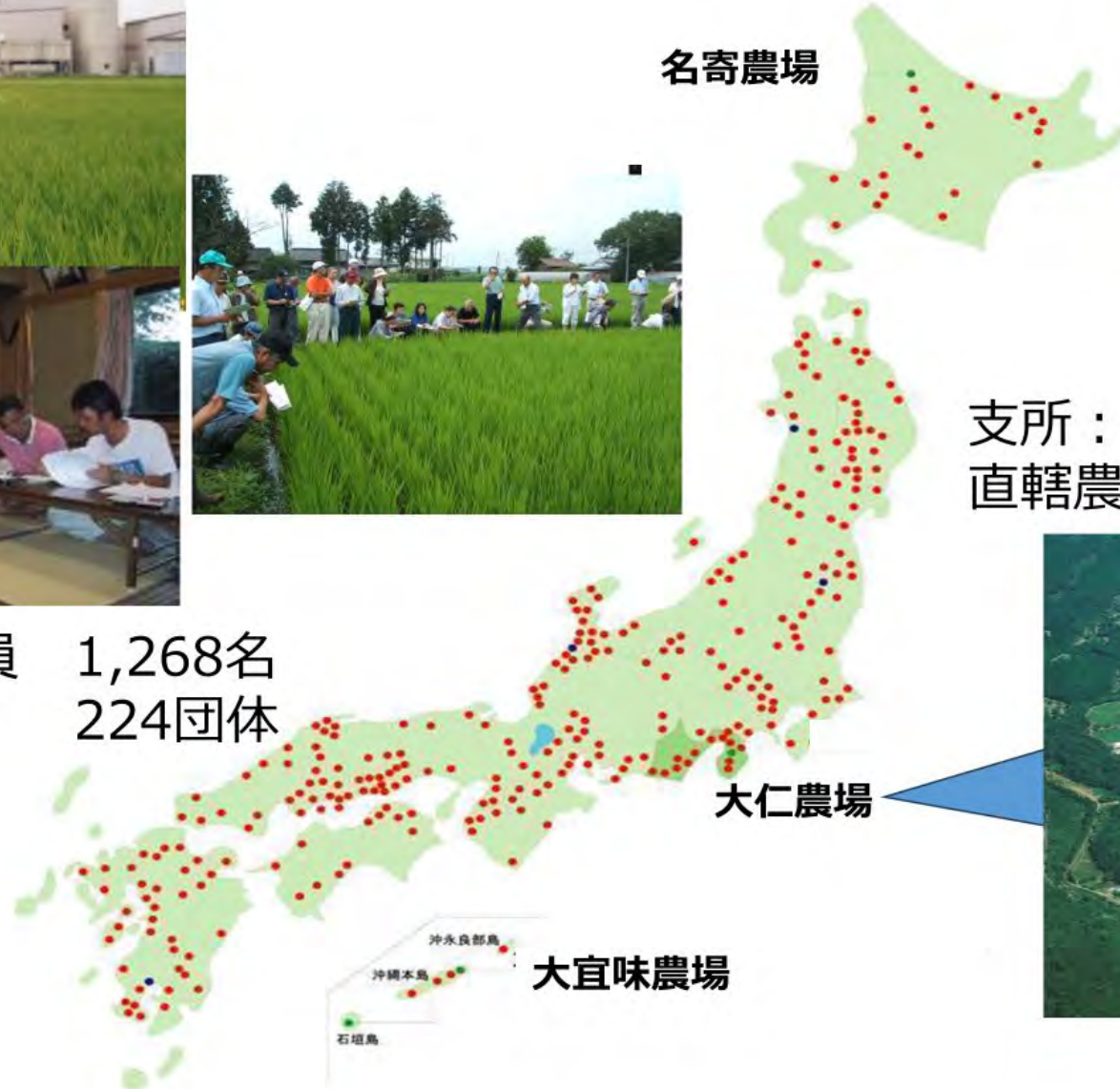
名寄農場



MOA自然農法ガイドライン

支所：10カ所
直轄農場：9カ所

生産者会員 1,268名
普及会数 224団体



南さつま市における 取組概要



事業実施主体

南さつま市

関係機関

- ・ 自然農法・オーガニック野菜推進委員会 (有機農業者団体)
- ・ 県立加世田常潤高校
- ・ 私立鳳凰高校
- ・ 県南薩地域振興局
- ・ (株)MOA商事 等

主な取組予定・時期

【生産の取組】

- 有機農業研修ほ場の設置
 - ・ 加世田常潤高校との連携
 - ・ 研修ほ場の管理
- スマート農業実証ほ場の設置
 - ・ アイガモロボット実証 ほか
- 有機農業担い手の募集
 - ・ インターンシップ受入 ほか

【流通・加工関連の取組】

- 学校給食用野菜等での加工試作
 - ・ 規格外野菜のペースト加工 ほか

【消費関連の取組】

- 学校給食での有機野菜の活用促進
 - ・ 学校給食センターとの協議
 - ・ 有機野菜推進月間の設定 ほか
- 地域を紹介する資料作成
 - ・ PR動画の作成
 - ・ YouTubeでの情報発信 ほか
- 有機農産物コーナーの設置

(取組時期：R4.4月～R5.2月)



加世田常潤高校との連携協定締結式

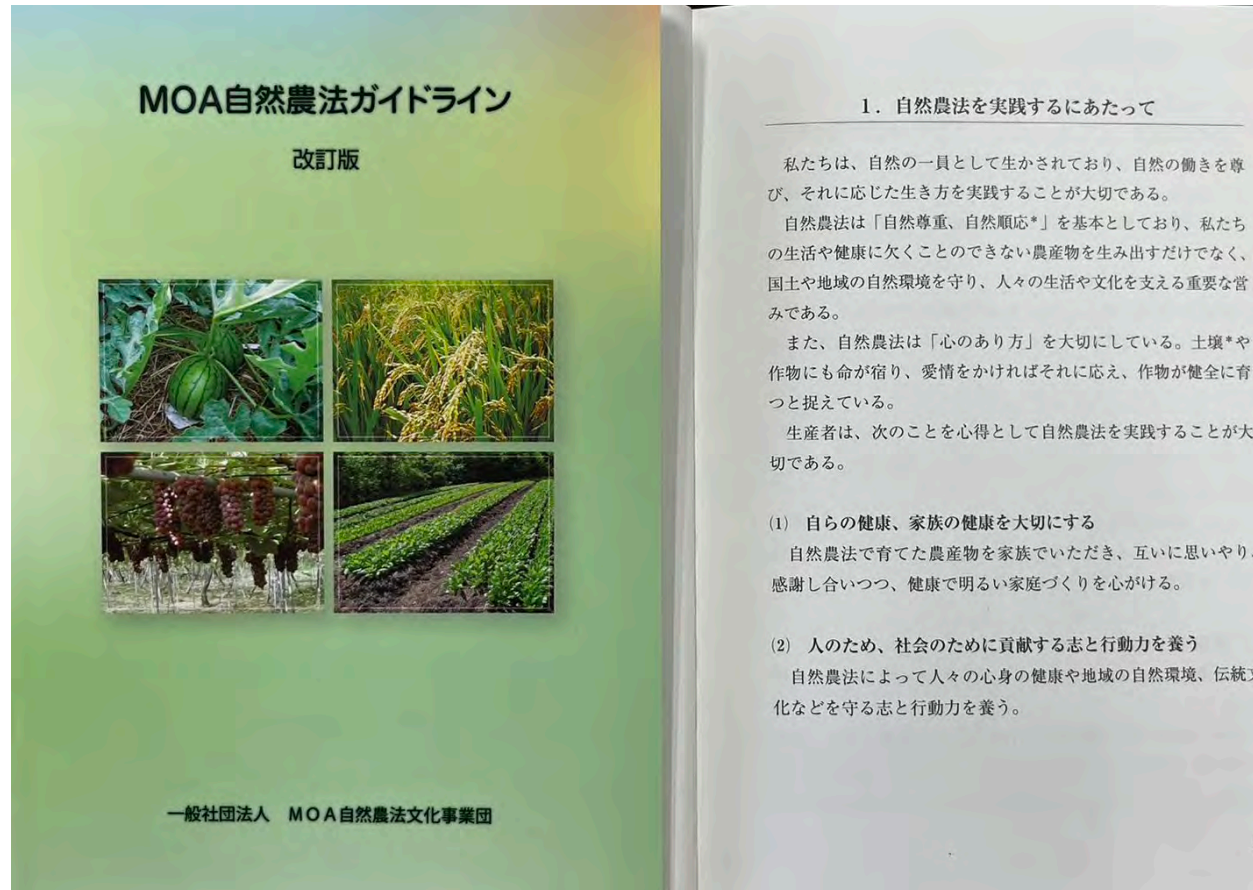


規格外野菜のペースト試作



技術体系

栽培の指針となるガイドラインを基本に



生産者それぞれが、ほ場に合わせ創意工夫する

自然尊重・自然順応（自然の働きに順応する）

自然観察

環境に合わせる

- 気象
- 地形
- 植生（ほ場の経歴）
- 土

適地適作

自然観察

- 土壌断面
- 土壌分析

土を知る

土づくり

作物の根伸びが良い

<そのほ場にあった工夫>

- 連作
- 種

- 耕起法
- 草の活用・管理 等

健康な作物

病害虫対応

品質・収量向上

土づくり

▶ 土の偉力を引き出す。

物理性の改善

生物性の発達

化学性の向上

排水性・保水性・通気性の改善
縦構造の形成
心土破碎

微生物、土壌小動物の
多様化、活性化

可給態窒素等、植
物に吸収されやす
い形態へ変化

生産者の事例をもって

適地適作・土づくりの具体的な紹介

CASE 1 (埼玉県 須賀利治さん)



▶ 適地適作

土質によって作りやすい、作りにくい野菜があるため、土質にあった作付けを第一に考えている。

土 質	野 菜
砂地	根菜類、ネギ
砂壤土	ネギ、キャベツ、ブロッコリー、枝豆、葉物、果菜類
粘土	ハクサイ、キャベツ、枝豆、タマネギ
火山灰土	根菜類

慣行から有機農業への転換中に作物による土づくり



小麦



大豆



小麦

大豆

12月播種

6月収穫 7月播種

11月収穫

▶ 根伸びを良くする

初期生育

適期

生育温度の確保

水管理

連作

物理性の改善

作付け
敷き草

